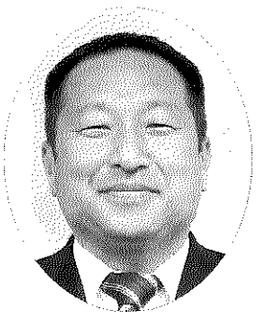
第211号
発行所
千教組長生支部
発行者
木村大樹
編集
情宣部
印刷所
小路印刷所

すべての出会いに感謝



支部長
椎原政文

怒涛の第二〇八号に「あのころの自分に・・・」という題名で七月に書かせていただきました。その内容は、浪人生のとき、阪神淡路大震災のボランティアに行き、ある家族を亡くしてしまったお母さんと出会い、さらに先生になりたいと強く感じたこと。先生として誇りをもって仕事をしていることを浪人生の自分に胸を張って言えない自分がいること。一年間この立場を全うすることを皆さまに約束することでした。

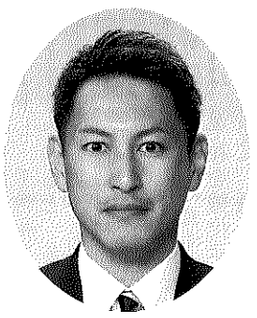
今年度も、教育界では様々なニュースが私の目に飛び込んできました。新型コロナウィルス感染症への各学校の対策はもちろん、教職員の多忙化、部活動の地域移行、定年の段階的引き上げ、教員採用試験の倍率の低下など・・・。先が見えない中での教育活動はとても大変ですし、不安でもあります。また、私自身、この立場を仰せつかりながらも自分の無力さに悩むこともありました。

しかし、この一年それをも吹き飛ばすできごとがありました。それは、先生方との出会いです。様々な立場の先生方と出会って、話すことが私への力となりました。それは先輩方だけでなく、若い先生方にも刺激をいただきました。話を終えると、いつも「明日もいっちょ頑張ろう！」となりました。たくさんの先生方と出会うことができ、この一年を終えようというところまで来ることができました。私ひとりではここまで来ることはできませんでした。本当に感謝申し上げます。

今ならあのときの自分に大きな声で言えます。「十九才の浪人生の自分よ！二十八年後の自分はおまえが思っているより先生という仕事をもっともっと楽しんでいるぞ！なんて言ったって俺の周りには最高の仲間たちがいるからな！」と。

この一年本当にありがとうございました。

皆さまの声が原動力



書記長
木村大樹

各分会においては、昨年度に引き続き、今年度も、皆で力をあわせ、智恵を出し合って、先の見えない日々の困難を乗り越えてきたのではないでしょうか。

長生支部においても、対面やオンラインを併用しながらつながりを保ち、その中で組合員のため、子どもたちのために何ができるかを考え、活動してきました。

組合員の声や力を集めた今年度の成果を三つ紹介いたします。

①教員免許更新制の発展的解消
②若年層の給与表の改定・勤勉手当の引き上げ
③特別休暇・子育て休暇の適用範囲拡大

①に関して

私たちが長年かけてとりくんできた「教員免許更新制の廃止」が「発展的解消」という表現で、実を結びました。ここに至るまでに国政の場で私たちの声を代弁してくださった日政連議員の存在は欠かすことができません。この四月から「新たな研修が始まる」とされています。今後も国の動向を注視し、継続して皆さまの声を県や国に伝えていきます。

②に関して

地公労を中心として、「生活改善を求める緊急署名（二万四千百五十一筆）」を提出し、人事委員会及び県当局に対して交渉を進めた成果です。しかし、物価高騰・光熱費の高騰などにより、私たちの生活の厳しさが増しているとの声が多く聞かれます。今後も連合千葉を中心とした春闘やメーデー、人事委員会交渉等の賃金改善のとりくみを積極的に進めていきます。

③に関して

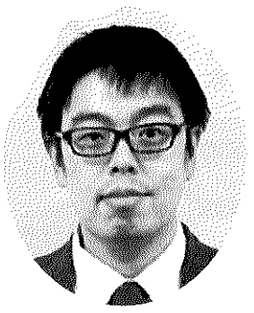
千教組が県教委交渉等で要望してきた成果です。新たに「地震、水害、火災、その他子の安全を確保する必要により、その子が在籍する学校等から保護者へその子の引き渡しが要請されている場合」が適用範囲に加わりました。今後も引き続き、仕事と子育ての両立に向けてとりくみを続けていきます。

組合活動の意義とは組合員の皆さまの困っているという声、よりよくしてほしいという声を集め、各関係機関に要望できることです。皆さまの声が交渉の原動力です。これからも声を長生支部や千教組本部に届けてください。

最後に、お忙しい中、署名等の各種とりくみにご協力をいただきました。執行部一同、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。来年度も、皆さまの力を結集させ、ともにがんばりましょう。

新しい始まりを迎えて

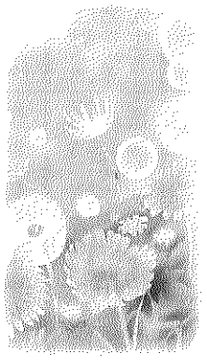
情宣部長　**若菜　秀紀**



本年度、情宣部長を務めさせていただきました。昨年度までと同様、コロナ禍での一年となりましたが、様々な場面でコロナ前の形を取り戻し始めているように感じながらの活動でした。顕著な例としては、三年ぶりにPTAバレーボール大会が開催されました。会場に入場可能な人数、観客の有無、合同チームのもち方など、困難な要件があっても「大会を成功させたい」という熱い思いが結実した大会でした。

もう一つの活動として、分会訪問を行わせていただきました。その中で、コロナ禍だからこそ先に進められた事も多くあったことが分かりました。タブレットパソコンの配備、オンライン会議の有用性、行事の再構築等、新しい試みが生まれた三年間でもありました。

本年度の活動を通して、コロナ前に戻すことも大切ですが、この厳しい環境の中で芽生えた新しい芽を、これからも大切にしていきたいと思いました。



二〇二三年度 千教組・長生支部役員紹介！

―ご支援、ご協力お願いします―

千教組

書記次長	中村　和嗣	（東郷小）

千教組女性部

副部長	松井　綾子	（睦沢中）

千教組青年部

副部長	田中　大空	（東郷小）

長生支部

支部長	椎原　政文	（富士見中）
副支部長	渡邊　健一	（八積小）
書記長	木村　大樹	（萩原小）
書記次長	松浦　俊介	（豊田小）
〃	岡澤　尚樹	（長柄中）
執行委員	中山　大輔	（鶴枝小）
〃	鈴木あやか	（萩原小）
〃	町野　光彦	（東部小）
〃	津嶋満理子	（東浪見小）
〃	芝田　稔弘	（睦沢小）
〃	渡辺　大介	（一松小）
〃	藍　直樹	（一宮中）
〃	菰田　泰孝	（長生中）
〃	大塚久美子	（茂原小）
〃	大多和絵美	（一宮小）
〃	片岡　広一	（五郷小）
〃	佐藤　大地	（豊田小）

女性部

部長	大塚久美子	（茂原小）
副部長	大多和絵美	（一宮小）
執行委員	赤井　恵梨	（東郷小）
〃	岡本　明子	（白潟小）
〃	丸山　聡美	（茂原中）
〃	瀬戸　仁美	（長生中）
〃	御園　綾香	（長南中）

青年部

部長	片岡　広一	（五郷小）
副部長	佐藤　大地	（豊田小）
〃	渡邊　遥	（西　小）
〃	内田有希乃	（萩原小）
〃	長谷川恵太	（中の島小）
〃	髙橋　美咲	（新治小）
〃	目黒　吉晃	（東浪見小）
〃	小髙　美穂	（早野中）

女性部活動をとおして

女性部長　松井　綾子

女性部は、本年度三六六名でスタートし、千教組女性部のとりくみのもと、各運動を進めてまいりました。一年間の様々な活動に対しまして、多くのご支援・ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

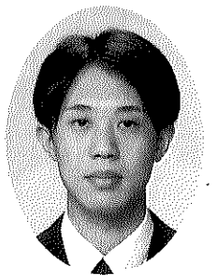
今年度は、平和を強化するとりくみとして、長生母と女性教職員の会」を開催（オンライン開催）したり、各分会にご協力いただき平和教育を実践したりしました。戦争を知らない世代が多くなった現在、子どもたちの平和な未来を実現していくためにも、この活動を続けていくことは大変意味のあることだと実感しました。

夏の観劇は今年度も中止を余儀なくされましたが、女性の連帯を強化するとりくみとしては、冬の講習会を行いました。仕事と家庭の両立で日々多忙な組合員の皆さまが、少しでも心を癒すことができるようにと、毎年とりくんでおります。このような様々な活動をとおして多くの方々に支えていただき、つながりがもてましたことに心より感謝申し上げます。

これからも仲間とのめぐり逢いを大切に、学び合い、支え合いながら、一人ひとりが生き生きと輝いて働ける職場づくりをめざし、ともにがんばりましょう。

青年部活動をとおして

青年部長　田中　大空



今年度も支部青年部の活動に、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

今年度の支部青年部は、「With」のテーマのもと青年部教職員同士のつながりを広げ深められるように、学習会やレク大会などの青年部行事を計画し、実施してきました。

学習会では、「スーツの着こなし&マナー講座」を初めて実施しました。福利厚生連携店である「スーツのAOKI」の代表を講師としてお招きし、青年部教職員の悩みを解決してくれる内容でご講話をいただきました。

レク大会では、「ボッチャ」を実施しました。パラスポーツを体験し、学習にいかせることなどを学ぶことができました。また、レクをとおして青年部教職員同士がコミュニケーションを図りながら、つながりを深めることができました。

感染症対策のため、急な予定変更や中止などもありましたが、ここまで充実した青年部活動ができたのは、皆さんの支えがあってこそだと感じました。

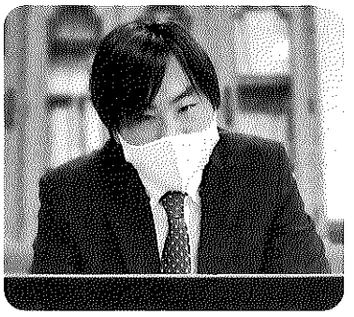
青年部活動をとおして、皆さんとつむいだつながり。このつながりを大切にし、皆さんと協力しながら支部の青年部をよりいっそう盛り上げていきたいと思います。

第72次教育研究全国集会（オンライン）

一月二十七日(金)から二十九日(日)にかけて、オンラインで第72次教育研究全国集会が開催されました。全国からのべ七千人が参加。一日目は全体集会を、二日目以降は二十四の分科会に分かれ四百七十五本の教育実践リポートについて共同研究者とともに討議を深めました。最終日には各分科会で総括討論を行いました。

日本語教育（作文・話しことば）

長島　大地（東部小）



本分科会では、国語科における、「日本語教育のめざすもの」「つづり方・作文教育」「よむことと学習活動」についての協議を行いました。各都道府県から寄せられたレポートには、様々な指導の工夫や、ワークシート等がかかれ、大変参考になりました。協議の中でも、お互いに情報交換をすることで、指導観や教材に対する見方など、今後の指導に生かしていきたいと思える貴重な時間となりました。特に印象に残っている指導は、「児童も教員も楽しいと感じることができる指導が大事である。」ということです。読むことや書くことは、自ら進んでとりくむことで力がつくということを改めて考えさせられました。

今回のレポート作成にあたり、国語部の先生方には多くのご指導をいただきましたこと、感謝申し上げます。ここで学んだことを学校の先生方や地域の先生方に伝えていくと共に、子どもたちに還元していけるようにしていきたいと思います。

総合学習と防災・減災教育（いのち・共生の視点から）

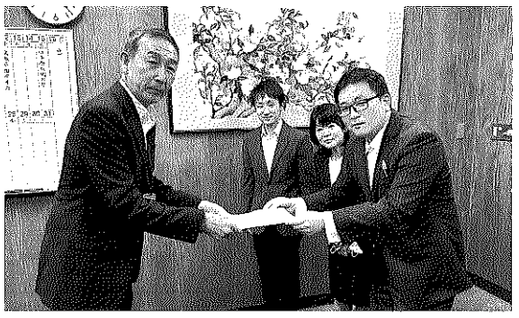
大島　梓（茂原中）

本分科会では、総合学習における「材」をいかに見いだすか、ということや、学習者がテーマを「自分事」として捉えるための手立て、計画について意義深い提案がなされ、建設的な議論が交わされました。また、二日目の全体討議では、インクルーシブ教育の実現に向けた教員の心構えについて話が及びました。「もっと知っていきたい」という思いを、総合学習という形にすることで叶えられるものがあると、共同研究者の先生方のお話で気付きました。また、いのち、防災、地域、共生という様々な視点から学習を計画できる総合学習の奥深さを感じることができました。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今回学んだことを、日々の教育活動に還元していきたいと思います。

子どもたちのより良い教育環境実現に向けて

～長生支部教育予算改善プロジェクト委員会のとりくみ～

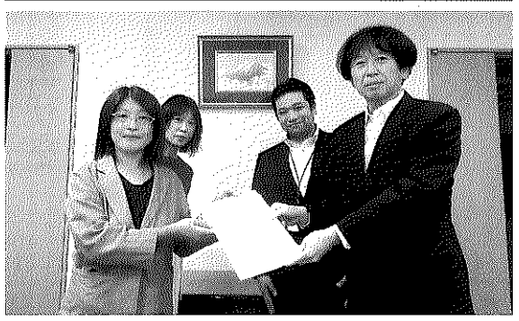


長生支部教育予算改善プロジェクト委員会では、各市町村教育委員会へ「教育条件整備に関する要望書」を提出し、今年度で十一年目となりました。「子どもたちの最善の利益の保障」をめざし、事務職員部五人と副支部長、書記長、書記次長の九名で活動しています。

今年度も全分会に教育予算に関するアンケートへのご協力をいただき、各市町村の予算の特徴や学校現場の現状を踏まえ、内容を厳選し、より良い教育環境実現に向けて要望して来ました。

【今年度、要望した内容】

- 図書費の増額
- 備品購入費の増額
- 留守番電話・校内電話の導入、整備
- 校務支援ソフト等の導入
- 特別教室等へのエアコン設置
- 支援員・特別支援教育支援員の更なる充実　等



みんなの夢を応援する“千葉教弘”
教弘保険で 自助・共助・公助
自助：教弘保険,まなびやなどを自分のために
共助：人間ドック,宿泊施設補助などで助け合いを
公助：奨学金,学校研究助成金などは教育振興に
※各事業の詳細は“千葉教弘”で検索を！
公益財団法人日本教育公務員弘済会千葉支部
株式会社千葉教弘　TEL:0120(10)8851

千葉県学校生活協同組合
〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10　千葉県教育会館新館6階
☎0120－24－6294　FAX0120－55－2130
千葉県学生協は組合員一人ひとりが「出資者」であり「利用者」であり「運営者」です。
みんなの参加が学生協を育てます。
加入　利用　組合員　運営　総代会　理事会
学生協の加入は「一度だけ1,500円」出資するだけ。組合員になることのデメリットは一切ありません。脱退時、増加分を含め「全額」が返金されます。この機会に、学生協へ加入しよう♪
詳しい内容については「学生協ホームページ」をご覧ください。
千葉県学生協　検索　http://www.jcgsk.com
マイページへのログインいただくと、さらに詳しい情報を見ることが出来ます。
スマートフォンの場合はこちらのQRコードを読み取りください。

みなさまの暮らしのパートナー　教職員共済
総合共済を基幹に、8共済で万一に備えています。
- 総合共済
- 団体生命・医療共済
- 火災+自然災害共済
- 新・終身共済
- 自動車共済
- 車両共済
- 年金共済
- 交通災害共済

教職員共済千葉県支部
千葉県教育会館新館7F　☎043(224)3701